

修士論文（要旨）

2011年7月

中国都市部における公務員の老後不安についての研究

指導 芳賀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

209J6901

姜 竺含

## 目次

I. はじめに	1
1. 中国社会の高齢化現状及び特徴	1
2. 問題意識	1
II. 先行研究	2
1. 中国の人々の老後不安についての研究	2
2. 日本の人々の老後不安についての研究	3
3. 公務員の退職準備教育についての研究	3
III. 研究の目的と意義	4
IV. 研究方法	4
1. 調査対象	4
2. 質問票の作成	4
3. 調査項目	4
4. 調査方法	5
5. 倫理的配慮	5
6. 分析方法	5
V. 研究結果	5
1. 老後生活への不安に関する変数の分布	5
2. 老後生活に対する不安の有無の分布	6
3. 老後生活に対する不安の有無と各変数との関係	7
4. 老後生活への不安に対するロジスティック回帰分析	8
VI. 考察	9
1. 老後生活に対する不安の有無の分布	9
2. 老後生活への不安に関連する要因	10
3. 本研究の限界と今後の課題	11
VII. おわりに	11
図表	13
参考文献	i
資料	①

## I. はじめに

本研究の背景となる中国では、2010年現在の総人口は13億7053万人のうち、60歳以上の高齢者の人口は1億7765万人で、総人口の13.26%を占める<sup>1)</sup>。1970年代から、「計画生育」政策（いわゆる「一人っ子政策」）を中国全土で実施されたため、現在の中国社会は「4,2,1」という核家族化による一人っ子の親世代の扶養問題を抱えている。すなわち、一人っ子同士結婚する場合、仕事や育児と同時に、4人の親の面倒も見なければならない。しかし、居住地が遠いなどのため、両方の親の面倒を見るのは物理的に不可能である。一人っ子の親世代は間もなく退職期を迎えようとしている。これから考えて老後に自分自身の自立度が低下した場合に子どもの世話になれる保証はない。高齢者扶養リスクの増大はすでに一人っ子親世代の最大の心配事となっている<sup>4)</sup>。一人っ子の親世代の老後不安に対する研究は急務の課題である。

## II. 研究の目的と意義

本研究の目的は、中国都市部における一人っ子の親世代である公務員の老後不安の内容とその不安感に影響する要因を明らかにすることである。

本研究の成果は、基礎資料として公務員の老後不安の軽減策を作成することの一助になると考える。また、一人っ子の親世代の老後不安を解消することは、子世代の負担も軽減することにつながると考えられる。

## III. 研究方法

2011年2月1日から2011年4月15日まで、中国遼寧省撫順市各行政機関における5年以内に退職予定の現役公務員男女70人を対象にして面接聞き取り調査を実施した。本調査は2011年1月桜美林大学研究倫理委員会の承認を得て行った。有効回答は60人であった。

## IV. 結果と考察

本研究の調査結果は以下のとおりであった。

1. 対象者は配偶者に先立たれることに対し、最も不安を感じていた。また、人々は自分の健康・身の回りの世話について極めて関心を持っていることが分かった。これらに加えて、対象者は自分の健康と身の回りの世話より、家族の健康と身の回りの世話についてさらに不安を感じていることが分かった。これまでの中国における一人っ子の親世代の老後不安に関する調査では、「配偶者に先立たれること」、「家族の健康」と「家族の身の回りの世話」の項目は言及されていないため<sup>5)6)</sup>、これらの結果は、本研究の特徴だと言えよう。

2. 健康度自己評価の低い者は高い者に比べ、配偶者に先立たれることへの不安度は有意に高かった。「空の巣家庭」の中、自分の健康に自信がない人にとって、健康状態が低下し、要介護状態になった場合、子どもの世話になれる保証はない。配偶者に先立たれると、唯一な家族介護資源を失うことになるため、不安度が高いといえよう。次に、健康度自己評価の低い者は高い者に比べ、家族の健康への不安度は高い傾向がみられた。自分の健康状態が低下すると、配偶者・老親の介護ができないことに対し、不安を抱えているのではないかと推察される。また、自分の健康状態について「健康ではないと思う」者は「健康だと思う」者より、自分の健康への不安度は有意に高かった。日本の研究では、現実の健康

状態の高低が健康不安に反映していることが明らかにされており、本研究の結果と一致するものであった<sup>7)</sup>。

3. 将来子どもと同居したい者はそうでない者に比べ、家族の健康と身の回りの世話への不安度はより低い傾向がみられた。一般に子どもと同居する高齢者はそうではない者より子どもの経済的扶養・生活上の世話・精神面の慰めなどの様々な支援を獲得しやすいことが認められている<sup>8)9)10)11)</sup>。

4. 職位が高い人は低い人より自分の健康と身の回りの世話への不安度が高かった。しかし、この結果については、解釈が付かなかった。今後、さらに追究していく必要があると考える。

## V. 本研究の限界と今後の課題

まず、対象者数が少なく、必ずしも中国の公務員の代表サンプルとは言えない。対象者数を増やし、老後生活への不安に影響を与える要因を改めて明かにすることが今後の取り組むべき課題である。次に、中国における公務員は収入がより安定しているため、本研究においては経済的に恵まれている人の不安意識を中心に調査している可能性も否定できない。今後の研究で他の職種の人々の老後不安について研究する必要もあると考える。また、本研究は日本の先行研究から不安項目を引用し、調査を実施したが、中国独自の不安項目にも着目しながら、今後の研究を深めて行く必要があると考えられる。

## VI. おわりに

本研究の結果を通し、以下の2つのことが分かった。

1. 中国都市部における5年以内に退職する予定の公務員は、これからの老後生活を考え、配偶者に先立たれること、家族の健康と身の回りの世話、自分の健康と身の回りの世話について最も不安を抱えている。

2. 共通している主な影響要因を見てみると、健康度自己評価、将来子どもとの同居意識と職位は公務員の老後不安に影響を与える主な要因として挙げられる。

## 参考文献

- 1)中国国家统计局:2010年第6次全国国勢調査主要データ官報(第1号),北京(2011).
- 2)若林敬子:現代中国の人口問題と社会変動.初版,201-246,新曜社,東京(1996).
- 3)張静:中国の人々の老後に対する不安の所在と高齢者福祉政策の課題.家政学研究,54(2):7-15,(2008).
- 4)于学軍:一人っ子政策の成果と展望.(若林敬子編著,筒井紀美訳)中国人口問題のいま.初版,63-86,ミネルヴァ書房,京都(2006).
- 5)王樹新・張戈:中国都市部における初代目の一人っ子の親世代の老後不安度についての研究.人口与社会,32(4):79-85(2008).
- 6)張鑫:中国都市部における初代目の一人っ子の親世代の養老問題に関する研究.吉林大学修士学位論文,(2009).
- 7)佐藤秀紀・福渡靖:前定年退職期における勤労者の定年後の不安感とその対応行動.厚生指標,46(3),19-26,(1999).
- 8)鄢盛明・陳皆明・楊善華:居住方式が子女扶養行為に与える影響.中国社会科学,第1期,130-140,(2001).
- 9)褚滢婧・孫鵬娟:都市部における高齢者の養老意識に影響する要因についての分析.南京人口管理幹部学院学報,26(2),43-46,(2010).
- 10)龍書芹・風笑天:都市部における居民の養老意識及びその影響要因.社会学研究,No.1,98-105,(2007).
- 11)韋璞:老年人居住方式及び影響要因についての分析.人口と発展,15(1),103-107,(2009).